

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

令和4年(2022年)

令和4年度日本庭園学会 関西大会開催案内

発行 日本庭園学会(会長 大澤 伸啓)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 地域環境科学部
造園科学科 庭園技法材料科学研究室
TEL(03)-5477-2428(粟野 隆理事)

令和4年度日本庭園学会関西大会(予告)

令和4年度の関西大会は、京都府京都市内にて、「近現代の二条城一継承・創出・保存一」をテーマに実施することになりました。現地検討会は、二条城の本丸・二之丸庭園、清流園等と、明治時代に二条城本丸として移築された桂宮邸跡等で行います。なお、桂宮邸跡庭園・近衛亭跡庭園は令和3年度に環境省京都御苑管理事務所によって修理が行われています。

研究発表のお申込みについては、ホームページをご参照ください。締切は10月7日(金)必着です。プログラムの詳細は、本誌次号ならびにホームページとFacebookにてお知らせします。なお、リモート開催については、実施の準備をしておりますので、10月中旬以降にホームページとFacebookで先行してご案内します。

◆日程

令和4年11月5日(土)～6日(日)

◆内容

令和4年11月5日(土)

午前 研究発表会(9:45受付開始予定)

午後 公開シンポジウム

「近現代の二条城一継承・創出・保存一」

※コロナウィルス感染症の予防の観点より

情報交換会は行いません。

※理事の方々におかれましては、昼食休憩時間中に理事会を行います。

令和4年11月6日(日)

午前 現地検討会：京都御苑(京都市上京区)
桂宮邸跡庭園・近衛邸跡庭園

午後 現地検討会：元離宮二条城

(京都市中京区二条通堀川西入二条城町541)

※非公開エリアも併せてご案内する予定です。

(二条城二之丸庭園の非公開エリアは対象外です)

◆会場

研究発表会・公開シンポジウム

ひと・まち交流館京都 第5会議室

会場までのアクセス

京阪電車「清水五条駅」下車1番出口より
徒歩8分、地下鉄烏丸線「五条駅」下車5番
出口より徒歩10分

記

現地検討会

午前/京都御苑(旧桂宮邸・旧近衛亭)

集合：京都御苑内中立売休憩所

9:30受付開始予定

会場までのアクセス

地下鉄烏丸線「今出川駅」下車3番出口より
徒歩4分

午前/元離宮二条城

(京都市中京区二条通堀川西入二条城町541)

集合：二条城東大手門前。各自でご移動願
います。13:30再集合予定。

理事会

ひと・まち交流館京都 第2会議室

◆参加費

学 会 員：1,000円 非学会員：1,500円

※学生は、会員の場合は無料、非会員の場合は
500円とします。

※上記金額に資料代を含みます。

現地検討会のうち、京都御苑への

入場は無料ですが、二条城に

ついては窓口での割引やイン

ターネット等を利用して各自で

入城券を御購入ください。

※公開シンポジウムのみ参加費は無料ですが、
資料をご希望の場合には、その代金として
500円を頂きます。



二条城webチケット
購入サイト

「日本庭園学会創立 30 周年記念 U30 懸賞論文」について

「日本庭園学会創立 30 周年記念 U30 懸賞論文」の授賞者は、令和 4 年 6 月 18 日の全国大会（福井県立図書館）にて公表し、9 月 3 日に授賞式と記念シンポジウム（東京農業大学グリーンアカデミー）が実施されました。

U30 懸賞論文「日本庭園への思い～日本庭園・日本庭園学会への夢と期待」の募集詳細については学会ニュースNo. 106（2021.10）をご覧ください、以下には募集概要・審査経緯・授賞者、並びに記念シンポジウムについて報告します。

日本庭園学会創立 30 周年記念 U30 懸賞論文募集概要

◆募集論文テーマ

テーマ：日本庭園への思い
～日本庭園・日本庭園学会への夢と期待

◆趣旨

日本庭園学会創立 30 周年記念に際しまして、U30 懸賞論文を募集します。その目的は、日本庭園学会創立 30 周年記念公開オンライン・リレートーク「庭と園に学ぶ～日本庭園・学のこれまでとこれから」にて披露される、斯界のリーダーたちの思いとそれとを重ねて考察し、日本庭園学の未来を展望することにあります。

◆賞（副賞）

最優秀賞

1 点 賞状・副賞（賞金 10 万円及び学会入会 10 年間会費無償）

優秀賞

2 点程度 賞状・副賞（賞金 5 万円及び学会入会 5 年間会費無償）

特別賞

複数点 賞状・副賞（賞金 3 万円及び学会入会 3 年間会費無償）

◆審査委員

栗野 隆（東京農業大学）

今江 秀史（京都市文化市民局）

松木 裕美（国際日本文化研究センター）

日本庭園学会創立 30 周年記念 U30 懸賞論文の審査の経過について

日本庭園学会創立 30 周年記念 U30 懸賞論文審査委員会

◆懸賞論文の応募数と審査の経過

本懸賞論文は、日本庭園学会創立 30 周年を記念として企画された。「日本庭園への思い～日本庭園・日本庭園学会への夢と期待」をテーマとし、日本庭園学の未来を展望することを視野に入れ、本会が創立した 1992 年以降に生誕した 30 歳以下の個人を対象に論文を募集した。募集期間は 2022 年 3 月 1 日から 3 月 31 日としたが、期間内の応募数が一定数に満たなかったことから、期間を 1 カ月延長し、4 月 30 日まで募集した。上記期間に、8 編の論文が学会事務局に提出された。

審査委員会は、栗野隆（委員長）、今江秀史（委員）、松木裕美（委員）の 3 名の構成とした。4 月 30 日に第 1 回目の審査委員会を開催し、審査基準について検討した。5 月 4 日より 8 編の論文の審査に入り、5 月 28 日に第 2 回審査委員会を開催した。第 2 回審査委員会では、厳正な審査を重ね、優秀賞 1 編、特別賞 2 編を選出した。なお、最優秀賞は該当なしであった。

◆審査基準

審査基準は、以下の通りとした。

日本庭園学に向けての能動性・積極性

日本庭園や日本庭園学会に能動的・積極的に関わろうとする姿勢が感じられ、論述内容が、著者固有の観点・切り口によってオリジナリティに富んでいるか（独創性・新規性・先駆性）。

論述の適切性・適時性

論述内容が先行研究等を踏まえて明快に論旨が構成されており、懸賞論文テーマ「日本庭園への思い～日本庭園・日本庭園学会への夢と期待」に即したものとなっているか。また、日本庭園を取り巻く時代状況を踏まえた内容、あるいは今後の将来を的確に予測した内容となっているか。

論述の有用性・発展性

論述内容が広い視野にもとづいて書かれており、今後の日本庭園や本学会にとって有益なものか、また発展性があるか。

◆授賞論文と授賞理由

【優秀賞】 板村 東磨氏

(東京農業大学大学院地域環境科学研究科造園学専攻
博士前期課程)

【題 目】

若手参入に対する課題と解決策について

【授賞理由】

本論文は、庭師不足の問題、特に若者がこの仕事に就きたがらない要因を整理し、そのための解決策として庭園に関する情報媒体の開発、若手研究者の育成、学術と現場の連動性の強化、庭師そのものの普及啓発を図る必要性を提起した。筆者は本問題を解決するために学生有志団体を設立し、庭師と学生とが交流する活動を始動した。庭園を取り巻く時代の実態を踏まえ、庭園への情熱と適時性を備えた点、机上にとどまらず実際の活動にも展開した点が高く評価された。

【特別賞】 矢倉 大夢氏

(筑波大学大学院 システム情報工学研究群)

【題 目】

多賀大社奥書院庭園を横切る川から読み取れる「庭園への思い」

【授賞理由】

本論文は、多賀大社奥書院（滋賀県犬神郡多賀町）の庭園はその北側に太田川（淀川水系犬神川支流）が流れることを想定して築かれた可能性について、修理記録と史料に基づいて検証したものである。周囲の地形や神社境内におけ

る施設の構成などを丁寧に分析し、通説に捉われることなく、庭園の成り立ちの意味を具体的に考察している点が評価された。これからは信頼に足る論拠に則って、学問分野の垣根を越えた庭園あるいは庭園学の発展へとつながる研究の継続を期待する。

【特別賞】 半田 沙奈絵氏

(植彌加藤造園株式会社)

【題 目】

命の輝きをみつめ、はぐくむ—日本庭園と子育て—

【授賞理由】

人が庭を育成管理すると同時に、庭が人を育てるという観点がユニークで、その考察を高い感性、謙虚な姿勢、巧みな表現で明快にまとめている。仕事と子育てを両立している造園実務者は存在するものの、そのことを文章化する取り組みは少ないため、男女共同社会の推進の観点からも評価に値する。今後、個人的な経験・考察にとどまることなく、日本庭園学会および広く社会の中で、同年代あるいは後進への理解や共感を促す発言や活動を期待する。

日本庭園学会創立 30 周年記念 U 30 懸賞論文授賞式 記念シンポジウム

U30 懸賞論文授賞式並びに記念シンポジウム「これからの日本庭園と日本庭園学」を、令和 4 年 9 月 3 日（土）東京農業大学グリーンアカデミーを会場とし、オンライン参加者を交えたハイブリッド方式により開催した。授賞式の後、受賞者らによる受賞論文をテーマとした話題提供を受け、会場並びにオンライン参加の皆さんと意見交換した。

なお、当日の授賞式・記念シンポジウム記録は、YouTube にて限定公開中です。以下のメールアドレスに、**件名【U30 ビデオ視聴希望】として、本文に「氏名・所属、学会員の有無」を記載**して視聴希望メールを送信してください。折り返し公開サイトのアドレスを返信にてお送りします。申込制にてどなたでも（会員外も可）視聴できます。

申込先：teienzoo@gmail.com

■ YouTube U30 シンポジウム構成 (記録時間)

1. 日本庭園学会長挨拶 (5:57)
2. 審査経緯・授賞式 (18:31)
3. 板村東磨氏話題提供 (21:25)
4. 矢倉大夢氏話題提供 (19:50)
5. 半田沙奈絵氏話題提供 (20:03)
6. トークセッション (1:19:06)



U30 懸賞論文募集チラシ



U30 授賞式・記念シンポジウムチラシ



U30 受賞者記念写真（右より大澤学会長・板村氏・矢倉氏・半田氏・栗野審査委員長）

【報告】令和4年度全国大会 現地検討会

東京農業大学大学院 地域環境科学研究科 造園学専攻 博士前期課程
板村 東磨

2022年6月19日（日）午前中に福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館と特別名勝一乗谷朝倉氏庭園において日本庭園学会全国大会福井大会2日目の現地検討会が執り行われた。

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館

一乗谷朝倉氏庭園の発掘調査をはじめとする研究は50年間継続して行われている。これらの研究及び発掘物・文献資料の管理などに加え、価値や魅力の発信の拠点として福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館が整備され、令和4年10月に開館予定である。今回の現地検討会では特別に開館前の博物館を見学させていただいた。

展示エリアは1階と2階があり、それぞれ現在の最新機能を施した機器が設置されていた。1階では朝倉氏の繁栄と滅亡の解説、周辺の地理的環境、及び発掘の研究成果などがパネルや映像により解説がされていた。1階の目玉は2つある。1つ目は傾斜を赤色の彩度で、尾根谷度を明度で表現する赤色立体図のデジタル地図の展示である。これは航空写真と赤色立体地図の透視度を調整できるようになっているもので、航空写真では判断できなかった地形の変化を赤色立体地図で見ることにより土地の傾斜が判読できるようになるものである。ただ見ているだけでは使い方も見方も分かりにくい、説明があると興味が出るものではないかと感じた。

2つ目は発掘遺構の露出展示である。この展示は川から舟を引き揚げる場所の遺構であると考えられている。博物館内に露出展示があることに驚いた。遺構にカビが発生するなど、展示に対する問題点も指摘されており、今後の対策についても気になるものであった。

2階は文章の説明よりも主に模型などによる視覚的展示物が多く見られた。模型は町一体を表現したものであり、1/30縮尺で制作されて

いる。寺院や民家、人の生活などが細かく作られており、当時の街並みを見るようでとても興味が湧いた。冬の寒さの影響により、この地区では瓦を葺くことができない。そのため柿葺などを葺き、留め具として石が屋根にいくつも置かれていた。瓦が葺けないというのも、この地域の特性であると感じた。2階の展示で驚いたのは、奥の大きな部屋に5代当主浅倉義景の館である朝倉館と庭園が展示されていたことである。展示は朝倉館の一部ではあるが屋根の棟から柿葺、柱、部屋の装飾品の屏風や襖絵なども再現がされており室内に建物が入っているようであり展示に興味を湧くものであった。庭には擬石などを用いている。再現性は劣っているとの指摘が多く見られたが、博物館で史料や過去の状態やなどを知った上で、特別名勝一乗谷朝倉氏庭園を見ることが推奨されていることから、展示の精度を上げることも大切ではあるが、展示意図はとても良いと感じた。



1/30 縮尺で制作された模型

特別名勝 一乗谷朝倉氏庭園

博物館より車で5分、距離として約2kmのところに一乗谷朝倉氏遺跡は存在している。一乗谷朝倉氏遺跡にはいくつかの遺構が残されている。現地検討会では諏訪館跡、中の御殿跡、湯殿跡庭園、朝倉館跡、唐門の順に見学を行った。

諏訪館跡は本などに写真が掲載されることが多いため、一度は目にしたことがある空間ではないだろうか。諏訪館跡の庭園は伏石だけでなく立石が強い雰囲気を出しているが、同時に柔らかさも感じることのできる庭園である。中央には滝が流れ、その上には大きなモミジが植わっている。庭園の構成は滝の上と下の二段の構成となっている。滝の上の空間はもともと経典を納める建物があり、その軸線と滝落ちの軸線は合わさっておりこの庭園は礼拝の庭であると伺った。空間の構成理由や使われ方を正しく理解しなければならぬと改めて感じるものであった。湯殿跡庭園は三尊石、鶴亀の庭であり戦国時代の庭に見られる荒々しさを感じることもできる庭園であった。庭園の裏は山になっており観音山と呼ばれている。もともとは連峰であった山に堀を切って独立峰にしている。奥には朝倉氏初代の墓である英林塚も祀られている。現在の観音山は木々に覆われた鬱蒼とした森であるが、樹木の整理や発掘調査の実施を福井県は考えており、今後の調査結果や景観の変化が楽しみな庭園である。朝倉館跡には発掘により出土した大規模な館の跡の礎石と小さな庭園の遺構が残されている。館跡の遺跡が約80m×60mほどの大きさがあるのにも関わらず、庭園として見える箇所は15m四方ほどしかない。空間としては小さい印象を受けるが、石積みや景石の配置の仕方、石の強弱の付け方、滝の見せ方がうまく、小さい空間ではあるものの、コンパクトに詰め込まれている空間であった。

一乗谷は周りが山に囲まれ、さらにその山々には城が築かれていたため、守りはとても強固なものであったことが窺える。一方で谷地形の箇所には人工物を構築することは、集水域に館を立てるということであり、洪水などの水害から逃れることはできない。その中で生まれたのが一乗谷の庭園群なのではないかと感じる。

朝倉館跡の上部には貯水池が設けられており、庭園に送る水と堀に流す水に分かれていた。何気なく見ていた周りの堀は、敵からの防御だけでなく水害の予防など、この地を開拓する上では欠かすことのできない重要なものであったと知った。また一乗谷朝倉氏遺跡は一つひとつの庭が、礼拝や水害からまもる実用的な施設であるとともに、全体として自然災害との共生を図る作りがされている。その全てが造園であり修景がされている庭園の空間であると感じた。

今回の見学では庭の成り立ちや立地性などについて深く学ぶことができた。今後も一つの庭園だけを見るのではなく周りの空間を読み解き広く庭という空間を見る目を養うことができたらと考えている。



一乗谷朝倉氏庭園 諏訪館跡庭園

【報告】令和4年度全国大会 公開シンポジウム

東京農業大学大学院 地域環境科学研究科 造園学専攻 博士前期課程
1年 市川天音

今回、私は初めて日本庭園学会全国大会に参加させていただきました。2日目の午後に行われたシンポジウムでは、午前中に福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館と特別名勝一乗谷朝倉氏庭園を見学したことにより、壊れつつある遺構を今後どのように保存活用していくべきかということを中心に考えながら、3人の発表者のご講演を拝聴することができ、非常に良い機会となりました。

小野氏のご講演では、武家の城館における庭園のもつ意味を学ぶことができました。庭園は館・屋敷を構成するパーツのひとつとして機能しており、庭園を含む各空間が人々の生活と密接に関わっていたことが、権力表徴という視点からまとめられていました。

また発掘遺構の保存活用の課題に関しては、その価値や歴史性を、展示方法も含めどのように伝えていくかということが重要になると考えました。今回訪れた一乗谷朝倉氏遺跡博物館では遺構展示室や復元模型を見学させていただき、幅広い年代、また福井県外の方々にもより親しみを与える施設になると感じたため、今後に期待したいと思います。

また高妻氏のご講演は、文化財保護の実際により近づいた内容であり、文化財に関わる人々の持つ技術だけでなく想いも感じ取ることができました。文化財をどのように保存していくかということを中心に文化的側面・科学的側面から分析し、正解がない課題に取り組む難しさに直面しながらも、今後に向けた可能性を探っておられることがわかりました。

今回、日本庭園学会創立30周年記念公開オンライン・セミナーとその最終回に当たるシンポジウムの総括としての藤田氏のご講演から、庭園の歴史や構成要素、建築や人物などのさまざまな視点から日本庭園についての研究がなされており、日本庭園の奥深さを感じるとともに、

発表者の方のお仕事や庭園に関わる研究テーマについても幅広く学ぶことができました。

また今後の課題としては、この日本庭園学会で共有されていることが、いかに他分野まで広く周知されていくか、ということが重要であると感じました。

創立30周年を迎えた日本庭園学会の今後の発展に期待するとともに、自らも日本庭園のこれからについて考えていきたいと思いました。



パネリストの皆さん。左から順に、小野健吉氏（大阪観光大学教授・日本庭園学会副会長）、藤田若菜氏（福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館主査・日本庭園学会理事）、高橋洋成氏（国立文化財機構奈良文化財研究所副所長）、小野正敏氏（国立歴史民俗博物館名誉教授）



会場の様子



吉田 博 画「植物園の眺望」

令和4年 10.29^土~12.11^日 10:00~17:00
月曜休館

入館料：一般 100 円 / 団体 70 円 (20 名以上)

中学生以下と65才以上の方、障害者手帳などの提示により、ご本人と介護の方1名は無料です。
※11月3日(木・祝)は無料公開日。
※会期中、文京区立森鷗外記念館入館券の半券を持参の方は、団体料金にてご観覧頂けます。

特別優待券
券

① 記念講演会「小石川植物園の植物学研究」

日 時：12月4日(日)午後2時~4時
(開場は1時30分)

募集人数：100名

講 師：小石川植物園長 川北篤氏

(東京大学大学院理学系研究科教授)

会 場：文京区民センター3A会議室

(文京区本郷4丁目15番14号)
対 象：高校生以上

② 史跡めぐり「小石川植物園の周辺を歩く」

日 時：12月7日(水)午後1時30分~3時30分

募集人数：30名

対 象：高校生以上で階段や急坂、未舗装の通路等

を自身で歩ける方。

※史跡めぐり参加希望の方で介護を要する場合、

介護の方1名とご一緒にお申込みください。

③ 記念講演会・史跡めぐりの応募方法

区報・区ホームページ等でご案内します。

小石川植物園異聞

令和4年度特別展

白山御殿跡いま・むかし

文京ふるさと歴史館

〒113-0033 東京都文京区本郷6-9-29

Tel: 03-3619-7221

地下鉄(本郷三丁目)「春日」駅から徒歩5分

都営バス(両国駅)上/下車徒歩1分

文京区立文京区民センター「B」徒歩10分

「文京区立文京区民センター」徒歩10分

「駒込通り」下車徒歩6分



【会費納入のお願い】

学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしく
お願いします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほ
どよろしくお願いします。

協力者：森本・荒川・細井(植彌加藤造園株式会社)

日本庭園学会広報委員会

今江秀史、加藤友規、マレス・エマニュエル

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-1

京都芸術大学日本庭園研究センター 気付

日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342